

開会挨拶

山口県子ども・子育て応援局長の森光でございます。

「ヤングケアラーへの理解を深めるシンポジウム」の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日はオンラインも含めまして多くの皆様方の御参加をいただき、誠にありがとうございます。また、本シンポジウムの開催に御尽力をいただきました関係の皆様方に、心から感謝を申し上げます。

さて、ヤングケアラーは、本来大人が担うとされている家事や家族の世話を日常的に行い、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで本人の生活や教育に影響があることから、早期に発見し適切な支援につなげていくことが大変重要です。

このため、県では、今後の支援のあり方を検討するための実態調査を、本年7月に、小学5年生から高校3年生までのすべての児童生徒を対象として実施いたしました。

調査結果につきましては、先月公表させていただき、後ほどの行政説明の方でも皆さんに御説明させていただきますが、今後、学識経験者や福祉、教育、市町等の関係機関で構成します検討会議で詳細を分析し、実態に即した支援体制の検討を行うなど、その活用をしっかりと図っていきたいと思っております。

こうした中、ヤングケアラー支援の取組を広く県内へ波及させていくため、本日、県民の皆様方の理解促進や福祉、教育等、関係機関の連携強化を目的としましたシンポジウムを開催することといたしました。

本日は、国の検討委員会で座長を務められました、西南学院大学の安部先生による基調講演と、県内の支援者による2件の事例発表をいただいた後に、それぞれの分野で支援に取り組まれておりますパネリストによる意見交換を予定しております。

どうか皆様方には、このシンポジウムを契機にヤングケアラー支援への理解を一層深められ、地域や職場などでの取組の輪を拡げていただきますようお願い申し上げます。

終わりになりますが、本シンポジウムが御参加の皆様にとりまして有意義になりますことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年（2022年）11月19日

山口県子ども・子育て応援局長 森光淳子

